

平成27年度(第2回)奈良県福祉・介護人材確保協議会 議事録(案)

開催日時:平成28年2月25日(木) 10時~11時30分

開催場所:奈良県経済倶楽部 大会議室

出席委員:空閑浩人、安達直美、内海敬三、玖島貴宏、高橋美和子、竹内輝明、原永直記、松長一樹、山本忠行
(敬称略)

- 議 題:(1)事業所認証制度の導入に向けた実態調査の中間報告等について
(2)人材確保に向けた協働・連携による取り組みについて
1)福祉・介護事業所取り組み事例紹介事業について
2)新卒者向けPR冊子の作成について
(3)今後のスケジュールについて

議事の概要

1. 議事

(1) 資料説明

事務局より上記議題(1)から(3)について、資料説明を実施

(2) 意見交換

意見交換の実施、各委員の意見の概要は下記のとおり

(1) 事業所認証制度の導入に向けた実態調査の中間報告等について

【内海委員】

- ・ 退職原因として仕事の負担感とあるが、福祉・介護の仕事には様々な負担感がある。体力的・精神的な負担、休日に急に呼び出されるなど変則的な勤務時間など内容がわかるのであれば教えて欲しい。
→ 今回のアンケートでは仕事の負担感の内容までは聞いていない。(事務局)

【竹内委員】

- ・ 離職理由に対する事業所側の把握内容と退職者の本音の乖離は事業所側が本当の離職事由をつかんでいないことを示している。
- ・ 入職者が安心して職場に入ることができることが認証基準の一番のポイントである。
- ・ 仕事の悩みを職員間、事業所側に相談できないこともある。認証項目のなかに個々の職員が抱える悩みを相談できる体制づくりの視点があることが望ましい。

- ストレスチェックや精神的・肉体的な問題に対する相談体制などを認証項目として検討する（事務局）
- 福祉・介護現場で働く卒業生に仕事が嫌いになり辞める人はおらず、職場や人間関係が原因で離職している。やりがいも大切であるが、職場環境も同様に大切である（空閑会長）

【原永委員】

- ・ 評価項目案のうち、コンプライアンスの内容は当然のレベルである。プラスアルファの内容が必要。
- ・ 評価項目内に雇用管理責任者の選任および周知の徹底を合わせて加えて頂ければありがたい。
- ・ 事業所の社会貢献はよい。地道に社会地域との関係性を持ちイメージアップにつなげることは重要。
 - 雇用管理責任者の選任および周知の徹底に関しても認証項目として検討する（事務局）

【玖島委員】

- ・ 退職時、退職理由をしっかりと聞いてもらえない、また理解してもらえていないという意見をよく聞く。事業所側は職員との溝を埋めることが必要。
- ・ 地域貢献活動について事業所の職員が自法人の実施事業をどこまで理解しているのか疑問である。
- ・ 職員満足度の数値化は難しいが、「満足度調査を実施している」という項目を追加することは可能。
- ・ テレビドラマ等の影響から、介護人材養成校の生徒の親が介護事業所への就職に反対している、また養成校に進学させても大丈夫なのかという意見があると聞く。イメージ改善が今後の課題。

【松長委員】

- ・ 実習、インターンシップで学生を受け入れている施設は学生から人間関係などの実態が見えやすい。そのまま就職したケースも多く、学校側としても勧めやすい。
- ・ 夏祭りの手伝い、事業所主催イベントなど地域活動を行っている事業所は学校としても安心できる。
 - 実習、インターンシップの受け入れ先ができる限り広がるよう推進したい（事務局）

【山本委員】

- ・ 評価項目が、福祉・介護事業所での勤務を希望する際の就職先選択には大きく資する。また、労働条件、職場環境を一定レベルまで高めることで離職抑制効果を期待できる。
- ・ 出来れば福祉・介護業界に入ろうと思う人を1人でも増やす機能を追加することはできないか。在職者が感じている満足の中身を把握し、表現・発信していく仕組みを持たせる工夫はないか。
 - 評価項目の基本部分とプラスアルファ部分をどのように組み合わせて制度設計を行うのか、議論を行っていききたい（事務局）

【内海委員】

- ・ 職員定着には人間関係が最も重要であるが、不満が上に伝わらないことが問題。雇用管理責任者を

設置しても敷居の高い人だと気軽に話ができないので、メンター制度がよい。

- ・メンターが職員の悩みを聞き何らかの対応策を取れば、退職理由との相違が生じにくくなる。

(2) 人材確保に向けた協働・連携による取り組みについて

【高橋委員】

- ・養成校に入学する学生は介護の仕事の価値を既に理解している。介護の仕事の素晴らしさを理解してもらうにはもう少し下の世代である高校、中学に働きかけをするほうがよい。
 - 配布先に関しては想定先を記載しているが、今後具体的な検討を行う（事務局）

【玖島委員】

- ・紹介動画の内容は、ただ介護の仕事の内容を伝えるだけではなく、人が高齢になるにつれて起こる状態変化と、変化する状態を支えること、また人生を支援することが介護の仕事であるという視点の動画があってもいい。高齢者・障がい者の方のコメントもあればよい。
 - 紹介動画は高齢者の方の意見もあるが若い人の意見を中心に 5 分にまとめている。編集作業が残っているので、今回の意見を参考にしたい（事務局）
 - ターゲットにより PR する中身や構成、重点が変わる。新卒者向けの場合、福祉に興味がある人が飛びつくようなアイデアが大事（空閑会長）

【竹内委員】

- ・参入促進は長期的な展望も必要。ターゲットは中学生、高校生や未就職者、フリーターのほか中高年の方があげられる。福祉を選択肢としていない方が多い。

【原永委員】

- ・動画は毎月ハローワークで実施している介護職デイにおける介護職の業務内容紹介に活用できる。
 - 動画の DVD 版も作成するので活用頂きたい。要望があれば DVD 等を提供する（事務局）
 - 取組みが自己満足に陥らぬよう、福祉・介護の仕事を知らない人が興味をもってくれるかという視点を共有しながら進めることが大事である（空閑会長）

(3) その他（平成 28 年度の取組み案）

【玖島委員】

- ・介護キャリア段位の取得と認証制度取得による助成は検討されているのか。
 - 現在のところは介護キャリア段位取得の受講料助成と認証制度構築は別と考えている（事務局）

以上